

平成29年度宝塚さざんか福祉会事業計画

1 各事業所の利用者（平成29年4月1日）

事業所	利用者数（定員）	計
宝塚さざんかの家	生活介護 45 (40)	45 (40)名
宝塚あしたば園	生活介護 39 (40)	39 (40)名
宝塚めふプラザ	生活介護 23 (20)	23 (20)名
宝塚けやきの里	生活介護 31 (30)	31 (30)名
ワークプラザ宝塚	生活介護 38 (34) 就労移行 5 (6) 就労継続B型 11 (10)	54 (50)名
かしの木工房 こはま	生活介護 25 (25) 就労継続B型 10 (15)	35 (40)名
従たる作業所「SasanQuality」	生活介護 8 (8)	8 (8)名
宝塚くるみの里	生活介護 14 (16)	14(16)名
いきいき宝夢	生活介護 39 (40)	39(40)名

合計 288 (284)名

2 今年度の取り組み

(1) 社会福祉法人制度改革に基づく取り組み

- ・改正社会福祉法に基づいた新たな理事会・評議員会・監事・会計監査などの組織統治体制を確立していきます。
- ・社会福祉法人の責務を果たすべく、地域に対する公益的取組を推進します。現行の福祉サービスや制度だけでは賅いきれない、当たり前暮らしのために必要な支援を行うための事業をモデル的に宝塚成年後見センターに委託し、権利擁護・意思決定等の支援に取り組みます。将来的には、他法人等との共同事業を視野に検討していきます。

(2) 人材確保について

- ・福祉現場の人材不足は、いずれの分野においても深刻となっており、少子高齢化の影響もあり、新卒者等の確保が難しくなっています。電子媒体や法人ホームページの有効活用だけでなく、法人組織として人材確保活動の役割を

明確化し、大学等との具体的な連携や積極的な訪問等を実施し、実習の積極的な受け入れや就活等をサポートするイベント等を実施し、人材確保に努めます。

(3) 人材育成・定着について

- ・法人理念を実践するために、研修や育成のためのプログラムを再構築し、職員一人一人の状況やニーズに応じた研修内容等々を提示できるようにします。
- ・職員間の親睦や交流等の機会を積極的に実施し、日ごろの業務等々が円滑に遂行できる、安心した職場環境づくりに反映するように取り組みます。

(4) 事業運営について

- ・会議や委員会等々の運営組織について、その役割が明確となるように順次見直しを行います。
- ・平成28年度までのビジョン検討の中で、今後の課題として挙げられた以下の項目について、各事業所の事業計画と合わせて、総合的に取り組みを検討していきます。

①高齢化する知的障害者の方々への支援について

②施設の老朽化や障害の多様化等による、施設環境の改善や構造化への取り組みについて

③事業所運営の適正化と役割等の明確化に向けての取り組みについて

- ・グループホームの運営については、平成30年度までにスプリンクラーが未設置のところは、昨年度と同様に整備・転居等を順次進めます。

(5) 「働き方」についての検討

- ・多様化する福祉サービスに即した「働き方」について、安心して働き続けることが出来るように、時代に即した諸規程等々の見直しを含め検討を行なっています。